



せせらぎスクール

7/17 札幌ふれあいの森
(札幌市清田区 有明)



酒井 健司 先生

親子で学ぶ 水環境

雨による順延で参加家族は当初の半分にりましたが、4年ぶりにせせらぎスクールを開催することができました。参加者は大人12人、幼児から中学生10人。

網と水中眼鏡を持ち元気に川へ入っていき、ドジョウ・ザリガニ・かげろうやトンボの幼虫・ヤマメ等々、多種多様な生き物を次々と採集しました。(株)野生生物総合研究所の酒井健司先生からは、名前や習性などを解説していただきました。10年前にはいなかった外来種のウチダザリガニが増えていて、このままでは在来種がいなくなるとの話に「こんなところにまで」と驚きました。ヤマメやフクドジョウ、スジエビ等いろいろな生物が今後も住み続けられるよう、水環境を守るためにも石けんを使いましょうとアピールしました。

〈石けん運動委員会 今井 芳恵〉



子どもたちも、たくさんの生き物を観察しました



INDEX

安心して暮らす・生きるを
生活クラブの福祉でつくっていきましょう!! 3

戦後 78 年 シリーズ 戦争を語り継ぐ 4~5
戦争を知らない世代へ / 大村 一夫さん

2023 年度 消費委員長研修報告 6
生産者の思いを知り 消費材の価値を実感

石けん運動を進めよう 7
きれいな水と大地を守る

生活クラブ Wind



組織委員会

いよいよ9月からの紹介キャンペーンが近づいてきました。今年度もそれぞれの支部運営委員会が渾身のおすすめ消費材を選び、チラシを作成しています。キャンペーン前に支部で組合員向けの消費材学習会や試食会などが企画されていたら、ぜひ参加して消費材の良さを再確認し、お友達に教えてあげてください。

また、キャンペーン中や終了後に組合員外も参加できる連動企画を計画している支部もあります。こちらはぜひ紹介者と一緒に参加してくださいね。組合員みんなで食べる仲間を増やしていきたいですよ！



消費委員会

8月9日の「知ることから始めよう会」では久しぶりにたくさんの方の組合員と生産者が集いました。完全に以前と同じ活動とはいきませんが、組合員活動が徐々に戻ってきた！という実感のわく会でした。

私たち組合員だけでなく、生産者もこの3年、顔をあわせて語り合つことの大切さを痛感しています。支部でも生産者を迎え、イベントを企画しています。

どんな会って生活クラブの良さを再認識してください。「対等互恵」を超えて、「相思相愛」な活動を展開していきたいですよ！



原発ゼロ・市民エネルギー委員会

「北海道マウンプリカ宣言」を5月に始めました。「核のゴミはいりません」の思いを込めた宣言は、各支部の運営委員会やくらぶボから、またサステイナブル委員会主催の映画上映会参加の皆さんから、またワークショップの皆さんからも届いています。宣言はさらに全国に拡がり、東京、長野、大阪、神戸等々からも声が届きました。

この自然があつて幸せの思いをぜひ参加されて一緒に宣言しましょう！核のゴミはいらないと一人ひとりが声を上げましょう！こちらのQRコードからも登録できますよ！



文化委員会

敗戦、そして戦争はこれでお終いにすると決めた終戦から78年目の夏です。生活クラブは30年前から8月の原爆投下日に戦争の恐ろしさ愚かさを学ぶ「ヒロシマ・ナガサキ平和行動」に取り組み、組合員のカンパで組合員・中高生を現地に送りだし、平和を考える糧としてきました。4年間の中断を経て、来年は再開予定です。今年は来年につなげる意味も込め、中高生との平和の集会を行いました。

9月24日には平和を願う様々な市民団体とつくる「チカホ憲法フェス」に参加します。これからも平和であり続けるための活動を皆さんと続けていきます。

組織（7月度）

組合員数 12,516 名
加入 59 名 脱退 56 名

共同購入（8月度）

利用高 2億3,181万2,485円
1世帯当たり 18,521円

グリーンシステム（7月度）

Rびん	回収	17,884本
	回収率	75.1%
紙パック	売却金	9,270円
	回収率	71.1%
ピッキング袋	回収率	24.2%

福祉基金（7月度）

賛同者数 3,017 名 賛同率 23.0%

エコロ（7月度）

加入者数 4,054 名
加入 6 名 脱退 14 名

生活クラブ共済 ハグくみ（6月度）

加入件数 1,526 件

CO・OP 共済（6月度）

保有件数	たすけあい	4,027 件
	あいぶらす	1,886 件

電気の共同購入（5月）

〈供給契約者数〉 772 名

〈電源構成比 速報値〉

5月は、約9割の電力を再生可能エネルギー発電所からお届けしています。

7月の理事会から

● 第十三次中期五年計画（2024年～2028年）策定に向けた話し合いを開始しました。

● 運営委員長および消費委員長の各研修報告とテーマ討議を内容とする秋の委員研修を開催するとの報告がありました。

● 監事会が主催する支部会計等に関する会計学習会を開催するとの報告がありました。

● 「生活クラブのまちづくり拠点」の進捗について、中央・岩見沢両支部から報告がありました。

● 8月以降のセンター配送体制について確認しました。

● 日本政府のエネルギー政策に反対表明を目的に、2023年度のエネルギ政策についての提案が生活クラブ連合会からあり、今後の取り組みスケジュールを確認しました。

安心して暮らす・生きるを 生活クラブの福祉で つくっていきましょう!!



生活クラブ生協北海道が福祉の取り組みを開始して30年、福祉基金創設から20年を迎えます。私たちは、自分たちが望む福祉の実現をめざすため、そのモデルとなるよう生活クラブのデイサービスセンター(札幌市豊平区)を運営していました。これまで地域福祉づくりの中心となるよう進めていましたが昨年12月に閉所し、今年はあらためて私たちが望む福祉のカチがどうあったらよいかを全組合員で考える1年にしようと、6月の総代会で決定しました。

組合員が福祉を考える1年に

まずはじめに「福祉・たすけあいって何？」を考えられるよう、気軽に参加できる上映会を行いました(下写真)。神奈川県藤沢市にある介護施設「あおいけあ」の1年を追ったドキュメンタリー映画『僕とケアニンとおばあちゃんたち』には130人が参加し、介護はする人・される人ではなく平等な関係性の中のたすけあいなのだと理解が深まりました。その他、豊平支部・手稲支部・いしかり支部・北広島支部でも地域連絡会が主催して、それぞれが実践していることも振り返りながら上映会を開催しました。



7/1 カナモトホール(札幌市民ホール)

次に、9月には運営委員対象の福祉の研修を行います。生活クラブが考え実践してきた福祉を、生活クラブ館・北広島、生活クラブ館・とよひら、子育て支援親子ひろば「ほっとたいむ」の現場を見て学びます。10月には全組合員対象に福祉を考える幅を広げるため、福祉バスツアーを計画しています。そして、10・11月に

は組合員みんなで討議を行います。討議資料を元に、班会・くらぶコミュニティ・くらぶラボ・サークル・委員会等の様々な集まりで話し合っ、声を出してください。12月の福祉基金報告集会の場で、みなさんからの意見を共有します。

豊平の地域の人と会う活動も

組合員が福祉を考えることと同時に、福祉担当理事会が中心となり豊平支部の協力も得ながら、デイサービスセンターの場所を起点に地域の人たちと会う活動もなっています。現在、デイサービスセンターの建物は組合員活動ができる場として、支部や本部が利用しています。ここで、豊平支部や豊平区月寒東(約18,000世帯)に向けて、イベントや公園横で展示説明会を行いながら生活クラブや生活クラブ館の存在を伝え、地域に必要なことを聞き取っています。営利を目的としない生協だからこそできる取り組みとして、生活クラブを越えた地域の人たちと多様なたすけあいのしくみを模索中です。



7/29 旧デイサービスの建物を会場に夏まつりを開催

福祉全体の維持・向上をめざして

少子高齢化のピークが2040年になると予想されています。介護の社会化を目的とした介護保険は、3年毎の制度改定により負担が増額されサービスは大幅に減少し、働き手への報酬も減額され、再び「介護は家族の責任」になろうとしています。生活クラブが取り組む福祉は、市民の側からの異議申し立て、けん制機能となって福祉全体の質の維持・向上を担う役割があります。地域でどのように暮らしたいかを考えて、安心して暮らす・生きるを、生活クラブの福祉でつくっていきましょう!!

戦争を知らない世代へ

1945年、8月6日午前8時15分、広島市に人類史上はじめて原子爆弾が投下され多くの命が奪われました。爆心地からわずか1.6キロにいた、当時4歳7カ月だった大村二夫さんは鮮明にその時のことを覚えています。語り部となつて6年、学校を中心に児童生徒たちへ戦争がもたらす核の脅威について自身の体験と想いを伝えています。



当時の様子を語る大村さん(82歳)。札幌市中央区在住。趣味は旅行。アメリカ横断の旅では、55歳でセスナ免許を取得

語り部をやるうと思つたきっかけは、ある新聞記事を目にしたことです。長崎を訪れた中学生が被爆者の語り部の話をきちんと聞かず「出ていけ」と注意され、「死にぞこないのクソじい」と言い返した。語り部の方が校長に抗議したところ謝罪文がきたというものです。その時、僕はある意味生徒の方が正しいと思つたんです。身内が戦死した、空襲で焼け出された、満州から引き揚げてきた、こういう人たちは話を聞いて自分たちと重ねて涙ぐむ。ある程度の年代まではこれでいいんです。でも、まったく戦争を知らない世代の中学生には悲惨な映像や語りだけでは伝わらない。だからこそ自分が語り部をやらねばと思い、2017年から学校を中心にまわり、1万人を超える方々に話をしてきました。

戦時下に生まれて

1940年に千葉県千葉市で生まれました。県庁に勤めていた父は、戦争が始まるとシンガポールのマレー半島で軍政官の軍務に就くことに。結核を患っていた母も北海道伊達市で医者をしていた兄を頼って入院したため、ひとつ上の姉と祖母、教員になりたての叔母の4人

で松戸市に移りました。翌年、母が亡くなったため叔母に育てられたようなもので、その頃(4歳)からの記憶が今も鮮明に残っています。

灯火管制で裸電球にシールドをかけ、空襲警報がなると暗幕にしました。近所のおばさんたちが消火訓練に使っていたのは金バケツじゃなくて上下竹製の輪で補強したズック製の袋。武器を作るために金物をすべて国に供出したからです。私たち子どもも、爆弾で飛び散らないようガラスに紙を貼る作業を手伝ったり、B29が撒いた降伏勧告ビラを拾って町内会に届けたりして戦っていました。

そんななか、あの3月10日の東京大空襲を迎えました。夜間に約300機の爆撃機が初の低空爆撃を行い、約10万人が死傷しました。この空襲を指揮したアメリカの将軍は、日本は家内工業で飛行

機の部品などを一般家庭で作っている。だから軍需工場だけが爆撃対象ではないと言っていたそうです。5月に父がマレー半島から帰還し、私たち一家は広島市に移りました。どこで戦争が?というほど、広島は平穏でとてものおんびりしていました。

8月6日

その日は父が山口市に出張していたので、うちの朝ごはんはいつもより遅かったんです。近所の子たちと外で遊んでいると8時10分頃に叔母が「ご飯できたよ」と。一緒に遊んでいた子たちは「まだ遊んでいるから早く食べておいで」と言ってくれました。家に入り、「警報が解除されてよかったね」などと話していたら、ブーンと飛行機の音が。ハッとした瞬間、大閃光と爆発音がして吹き飛ばされていました。私と姉が倒壊した家屋の下から這い出した時には、町並みすべてが消えていました。遅れて脱出した祖母と叔母と一緒に避難所に逃げたのですが、火傷で血だらけの人や体操中に被爆した兵士が熱さに耐えかね川に飛び込んで流されていく姿を目にしました。山口で広島壊滅の報を聞いた父は戻りたくても列車が走っておらず、翌日、トラック便で広島に入りました。勤めていた役所は爆心地近くだったので同僚はみんな爆死。我が家も爆心地から1.6キロだったので家族はもうダメだと思ったのですが、夕方、避難所で再会するこ

とできました。

翌朝戻ると、自宅は全焼していてコンクリートの流しと防空壕、原形不明の残骸だけが残っていました。畑のかぼちゃが真っ黒になっていたけど放射能なんか知らないから、炭をそいで「美味しい、美味しい」って家族みんなで食べました。家の前は数キロ先まで見渡せるほどの焼け野原になり、電信柱だけが残っていました。当時のは木製だから昼間ずっと煙を吐いていて、それが夜になると炎が見えてロウソクのように…なんとも言えない光景でした。毎日少しずつ低くなって4、5日で消えていきました。路肩には避難途中に力尽きて亡くなられた人がたくさん転がっていて、町内の人が身元のわかるものをはがし、熊手を使って集めて重ね、夜になると燃や



大村さんが描いた被ばく直後の広島市内

していました。凄まじい匂いだったのを覚えています。

叔母と罹災者証明をもらうため街に行くと、鉄の骨組みだけになった市電が停まっていた。中には真っ黒な焼死体が放置されたまま。ちょうど通勤時間だったから満員電車で大勢が焼き殺されたんでしょ。あまりの多さに、死体を見ても恐怖すら感じませんでした。途中、写真片手に家族を探す人たちの問いかけに答えたことも覚えています。

8月いっぱい防空壕で生活をした後、隣の五日市に移り住みました。役所が借り上げた寮には6、7世帯が住んでいましたが、そこで毎日顔を合わせる元氣そうなおばさんたちが「最近どうなのよ」と櫛を入れると髪がボサツと抜ける。「私も」という人が次々出てきて、3、4日のうちに丸坊主になり亡くなっていきしました。同じ頃、私も原因不明の脱水症状を伴う下痢が毎日続いていた。

続く、目に見えない恐怖

父の転勤で仙台、富山と渡り歩いたあと、昭和23年8月に札幌に移りました。小学2年生の時です。ちょうどその頃から原因不明の熱に襲われるようになり、3年生になる頃には通学もままならなくなりました。休学して1年半の自宅療養をし、なんとか体調が戻ったので2回目の3年生に復学しました。学校では「広島の子残りだ」と、原爆にあったことを平気で話していました。

小学校卒業の昭和29年、第五福竜丸の事件が起きました。閃光を浴びた無線長がしばらくして亡くなると、世間では放射能の後遺症が報道されるようになっていました。広島の子残りと言っていた私は会う人会う人に「大丈夫？」と聞かれるようになり、それが本当に嫌で嫌で父に頼んで隣の中学に転校し、それから広島の話はひと言もしませんでした。

そうこうしているうちに、白血病というのをなんとなく知ったんです。当時は治療法がなく、突然発症するとすぐ死んでしまう病気でした。高校生になってからは常に命の不安を抱え、生きるためにどう過ごすかばかり考えていました。同級生が大学や将来の話をしているも、自分には先がないからと全く興味を持てませんでした。高校3年生の時、大検（大学入試資格検定試験）を知って、これだと思いました。小さくても生きた証がほしい、早く社会に出たいと考えたんです。大検に合格するやいなや高校を中退。そして10社ほどの企業に応募しましたが、高卒資格未達で全部断られました。気持ち折れかけていたところ、設立まもない会社が面接をしてくれて採用となり、71歳まで勤めることができました。

社会人になってからも、常に発症の恐怖につきまとわれていました。会社の定期検診で低血圧を指摘された時は不安で眠れなくなり、それから健康診断や病院を避け、風邪をひいても市販薬で済ませました。40歳過ぎに偶然再会した同

級生が医者になっていて、それからやっと知っている病院にだけ行けるようになりました。被爆者手帳も持っていますが、心理的に嫌で一度も使っていません。

悲惨さの後ろにあるもの

原爆資料館の展示物にあるような地獄絵や東京大空襲の話。そういうのも大事なんだけど、惨状を伝えて脅すだけではもうダメなんです。悲惨さだけを語っても核の本当の怖さは伝わらない。その後ろにあるものが何なのかを知らない。通常爆弾と違って、核爆弾は奇跡的に助かっても終わらない不安を被爆者に残し続けます。心身の辛さはもちろん、後遺症に対する不安、目に見えない恐怖感をずっと持ち続ける苦しみ。核の真の怖さです。



今の世の中の流れをみると、これからの日本が何にも巻き込まれず、何も起こらないで進むとは思えません。戦争なんて自分に関係ないというのはダメ。他人事じゃない、自身の問題と捉えてください。戦争がなぜ起きるのかを調べて語り合い、世界の動きに関心を持つ人になってください。戦後78年が過ぎた今、戦争を知らない世代がほとんどです。みなさんが同じ過ちを繰り返さないよう、今後戦争や原爆についての体験を語り伝えていきたいと思っています。〈聞き手／五十嵐〉

生産者の思いを知り 消費材の価値を実感

3年間のリモート開催を経て、今年度は漁業と畜産をテーマに1日目(7/5)は生産現場を見学し、2日目(7/12)は生活クラブ本部にて、調理や試食を交え生産者から直接話を聞くことができました。参加した委員長3人から報告をしてもらいます。

1 日目

(株)NSニッセイ・東しゃこたん漁業協同組合
(株)平田牧場 / 古平農場

知れば知るほどすごい！

恵庭支部 須藤 香

今年4月から消費委員長になり、生産現場に行ったり生産者と交流するようになりました。生産者と生活クラブの提携の深さを身をもって学んだことで、買いたい消費材も増えました。

1日目の午前は、NSニッセイと東しゃこたん漁業協同組合の加工工場を見学しました。漁獲物の変化や量の減少、資材や燃料の高騰など、大変な状況の中でも、安心して美味しい消費材にこだわって作ってくれています。

午後の古平農場は衝撃的でした。三元豚の繁殖のために全部で200頭ほどの母豚の管理や、1頭1頭の状態を確認し、次どの段階かを把握して移動させたりエサを変えたりとやることが多く、説明を聞いているだけで頭が混乱し、大変さが想像できました。豚舎を案内してくれた農場長の三宅徹さんが丁寧にわかりやすく、たくさんお話してくださって、なにより豚への愛情が伝わってきました。

「知れば知るほど生活クラブの消費材はどれもすごい！間違いない！」と思いました。



平田牧場の三宅さん(中央右)と天坂さん(中央左)を囲んで



2 日目

全農チキンフーズ(株)・大金畜産(株)

国産鶏種に取り組む意義

清田支部 ^{とおよ}遠谷 翔子

現在、国内の鶏肉の98%が外国鶏種で残りわずか2%が国産鶏種です。私達が食べる鶏肉になるまで4世代が命をつなぎ誕生します。外国から輸入されたものではなく国内で飼育・生産できる仕組みが必要と考え、生産者とともにつくったものが丹精国鶏です。その2%を守っていくため、そして増やしていくためには食べ続ける必要があります。

何を食べて、何を次の世代に残していきたいか、一人ひとりが何を選ぶかが大切だと感じました。貴重な国産鶏種の丹精国鶏、これからも利用していきたいでしょう。



丸鶏の解体・解説をする、全農チキンフーズ(株)〈群馬県〉の井田大作さん

もっと食べよう！古川ポーク

北斗支部 ^{しらまさ}白砂 千香子

古川熟成ポークは一般的な熟成方法と大きく異なり、超低温乾燥状態で酵母菌を使って熟成します。摂氏1℃の低温で湿度を65%の低さに保って乾燥熟成させていくのが非常に難しいそうです。また、一頭買いによる部位バランスも、安定供給できるよう、知恵を絞ってコントロールしているとのことでした。私たちに変わりなく消費材を届けるために、生産者は常に努力を重ねているんだと感じました。



大金畜産の加工肉は古川農場の豚肉を使用。調理・説明する市場開発部の松田鉄夫さん

今日はどれにしようかな？と楽しみながら、いろんな加工肉を食べていこうと思います。



石けん運動を進めよう きれいな水と大地を守る

生活クラブ北海道が会員団体である「合成洗剤追放北海道連絡会」は年に1回、札幌駅地下歩行空間（通称チカホ）の一角で、大勢の道ゆく人たちに向けて石けんのアピールをおこなっています。今年度は7月8日に行い、「香害」についても伝えました。

私たちの活動

このPR活動は「合成洗剤追放北海道連絡会」のほか、「くらしを洗おう！さっぽろ市民の会」「石けんステーションラクーン」との共同でおこなっています。ポスター掲示や展示品、石けんパンフレットなどを用いながら、石けんと合成洗剤の違い、石けんの優位性などを語り、水環境を守る暮らしが大切であることなど伝えました。ラクーンコーナーでは粉石けんひなたぼっこや十勝固形石けん、浴用石けん、歯磨き類など石けんを販売しました。



地域へ石けん使用を広げる活動をしている生活クラブ組合員のラクーンメンバー

使い方を
教えてい
ねいに
お教えし
ましたよ



こうがい「香害」

便利さや快適さを求めた結果、現在の暮らしの中には多くの合成化学物質が蔓延し、「香害」が社会問題となっています。香りで苦しんでいる人たちがいることをぜひ多くの人に知ってもらいたいと思い、声かけをしました。「知らなかった」「もしかしたら、私も化学物質過敏症かも」「最近の洗剤や柔軟剤はニオイがきつくて頭が痛くなる」などの声もありました。



クイズコーナーでは石けんをプレゼント



香料自粛を呼びかける自治体作成の啓発ポスターを見ながら、「香害」について説明しました

国が作成したポスター



コネコネ石けんや魚釣りのコーナーには、たくさんの親子が立ち寄ってくれました！

体に害のある疑わしき物質を使用しない、人間の体・環境・生物の生態系までもが影響される物質を無くそうとの趣旨から石けん運動を推進してきた合成洗剤追放北海道連絡会は、1977年に当時の市民団体・労働組合が中心となり結成され、現在に至ります。石けん運動を生活クラブと同じ志で推進してきた団体との市民へのアピールは、今後も地道に進めていくべき大事な活動だと改めて感じています。（石けん運動委員会担当理事 高橋香理）

information

発行 生活クラブ生活協同組合 札幌市厚別区大谷地東1丁目4-15 TEL 011(887)8891 FAX 011(887)7229
発行日 2023年8月20日 編集 広報委員会 W・C・O・P・R・S・E・D・O

つなげよう!!
食から人の輪へ

2023 生産者がやってくる♪

わくわくまつり

10月9日(月・祝)

京王プラザホテル札幌
エミネンスホール

今年は実参加のみで開催。詳しくは
8月3週発行のチラシを見てね!

まつり実行委員会

報告

平和の集会～小さな希望を実現することが大事 ヒロシマ・ナガサキ平和行動再開をめざして



中村 哲 医師のドキュメンタリー映画の
上映後、弁論発表と意見交換

アフガンの地に用水
路を拓き、目の前の命
を救うことに全力を注
いだ故中村 哲 医師の
生き方を学び、平和へ
のアプローチを自分の
言葉で表現しきった中高生二人の弁論を間近に聞きま
した。立命館慶祥中学校・高等学校 弁論研究部 14 人、
組合員と子どもたちの総勢 70 人を超えた会場は、小さ
な希望の灯を確認し、自分もまた灯をともし一人になり
えることを共有する場となりました。

〈主催 文化委員会 8/2 かでる2・7〉

本ページに記載しているイベント等については、生活
クラブニュースを見て、参加申し込みをしてください。

問合せ 生活クラブ本部 TEL 011(887)8891

<https://www.hokkaido-seikatsuclub.coop/>

葬儀学習会

葬儀に必要なもの・こと

日 時 9月14日(木) 10:00～12:00

場 所 生活クラブ本部 (札幌市厚別区大谷地東1丁目4-15)

内 容 生活クラブ 葬儀サポーターによる学習会です。いざ
という時に備えて知って
おくとうちなことを学び
ます。疑問や情報を共
有しましょう。託児あり。



ニュース

8月1週

主催 福祉担当理事会

秋の委員研修

9月6日(水)に委員研修を行います。運営委員長研修と
消費委員長研修の報告。「あらためて生活クラブと SDGs」
と題して、力を入れて発信していきたい活動テーマなど
についてグループで討議します。



Instagram・Facebook もご覧ください!

ホームページからも
アクセスできるよ



牛乳パックの再利用

南支部 米村 正明

数年前に新聞の投書で、高齢の婦人が牛
乳パックの再利用のため一枚に広げようと
するが、力が入らなく困難になったと嘆い
ていた。手に力が入らなくなった場合の補
助具を探してみても、ボトルのキャップを
ねじるための補助具、アルミ缶のブルリ
ングを引っ張る補助具などは見つかったが、
牛乳パックを広げるような補助具は無いよ
うだった。

ハサミで切ればできるけど、やはりきち
んと分解して広げたいという気持ちはよく
わかる。私はコーヒーを毎日淹れているが、
そのときに牛乳パックがうまく空になれば
ヤカンの残り湯を空の牛乳パックに入れ、
数分放置しておく。すると、のり付けた
部分が少ない力でスムーズに剥がせること
がわかった。固い底の部分も、力を入れる
ことなくきれいに剥がせる。ただ、メーカ
ーにより剥がしやすさが違うので、剥がしや
すいパックを供給していただけると、あり
がたいと思う。

組合員のエッセイを募集します。400字程度。テーマ
の指定はありません。本部 川瀬まで、ファックスが業
務便で送って下さい。



道産 道産間伐材を配合した紙を使用しています